

[所 感]

長崎市議会議員 小宮 慶一

平成 22 年 8 月 23 日から同 27 日までの 5 日間、中国・福州市との友好都市提携 30 周年を記念する公式訪問団に参加した。

主な訪問先は、福州市と上海市。福州市は、福建省の省都で人口 683 万人の長い歴史を持つ文化都市である。また、中国で初めて対外開放の港湾都市、国際歴史文化名城とも指定され、近年は中央政府の全面的な支援を受けて飛躍的な経済発展を遂げようとしているともいわれている。

福州市では、これまでの交流の歴史を振り返るとともに、今後の更なる交流を確認し合う公式の表敬訪問や各分野における交流会などにも参加、まちの公園広場で開催されていた市民イベントにも参加して、市民と一緒に日本の歌謡曲である「北国の春」を合唱するなど、和やかな中に一般市民との親睦を深めることができた。

特に、訪問二日目の 24 日は、「水産交流研修コース」を希望して、同市連江県の昆布養殖の育種施設やハイブリッドあわびの海上養殖施設と水産研究所などを視察させてもらった。そこでは、現地の生産関係者や加工に関係する人たちとも技術的なことを含めて意見交換するなど、長崎市との技術交流の歴史を実感することができた。

また、福州市の歴史文化を保護し、観光ビジネスにも役立てようとする「三坊七港」のまちづくり事業も興味深く見学することができた。

上海市では、上海万博会場を見学したが、見物人の多さに驚くばかりで、人気の中国館にはとても入ることはできなかった。しかし、日本館で開催されていた「孫文と梅屋庄吉展」をパネルと映像で視聴することができたことが唯一の救いであった。上海の街のビル群には驚いた。